



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

かわら版 31号

2/25、第24ステージのコースは、箱根口～大磯である。小田原～大磯間は旧東海道を拡幅して国道1号線にした例の風情の無い道路である。そこで観光隊は旧東海道の面影が残る箱根口～小田原、吉田茂など歴代首相ゆかりの地・大磯付近を歩く作戦である。今回は貸切バスなので出発地、コールはある程度自由に設定できるが、貸切バスとはいえ、法規厳守のJR東海バスは乗降場所に気を使う。観光隊、本隊とも出発は駐車場が借りられた湯本の鈴廣資料館である。東海道をくまなく歩く本隊は全線を歩く。観光隊はバスが待機できる小田原城西口駐車場まで歩き、小田原城の観光ボランティアの説明を聞く。観光ボランティアは「小田原城を端折って説明しても1時間半を貰わない」とおっしゃるのを1時間に値切って(?)聞く。約100名所属しているという観光ボランティア、研鑽が進んでいるのか参加者を飽きさせない。予定より少し遅れて出発し、嫌がるJR東海バスを説得して大磯駅付近の路上で降車し、バスが待機できる「城山公園」まで歩く。本隊はリーダーの鈴木範道さんが膝のケガで歩けずそのせいかペースがゆっくりで良かったとか。これがホントの「けがの功名」。

鳴立庵

西行法師の歌で名高い(と言われても知らないが)鳴立沢に寛文4年(1664)小田原の崇雪が草庵を結び、元禄8年(1695)俳人の大淀三千風が第1世庵主となった。京都の落柿舎、滋賀の無名庵とともに日本三大俳諧道場の一つと言われている。



小田原のかまぼこ店・鈴広の前



小田原城・昭和35年に復興された

